

小委員会の調査報告書

教科名	英語	委員長名 岸 田 賢 浩
調査研究の経過	<p>1 審議の概要</p> <p>(1) 第1回調査委員会を7月1日(水)に、稚内総合文化センターで開催し、英語小委員会の委員長並びに副委員長を選出するとともに、調査研究の進め方等について確認した。</p> <p>(2) 7月2日(木)から7月21日(火)まで、「教科書見本本」、「教科書編修趣意書」、「採択参考資料」をもとに、調査研究を進めた。</p> <p>(3) 第2回調査委員会を7月22日(水)に、稚内総合文化センターで開催し、報告書の作成を行った。</p> <p>なお、調査研究した教科書見本本の発行者(略称)は、東書、開隆堂、三省堂、教出、光村、啓林館の6者である。</p> <p>2 調査研究の観点</p> <p>調査研究の観点は次のとおりである。</p> <p>(1) 「取扱内容、内容の構成・排列」について</p> <p>(2) 「使用上の配慮等」について</p> <p>(3) 「その他」について</p>	
調査研究に当たったの配慮事項	<p>次の点に配慮して調査研究を進めた。</p> <p>1 「取扱内容、内容の構成・排列」について</p> <p>(1) 学習指導要領の総則及び各学科、各学年の目標、内容等に基づいて取り上げられているか。</p> <p>(2) 知識及び技能の活用、思考力、判断力、表現力等及び学びに向かう力、人間性等の発揮による資質・能力の育成に対応できるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習内容などがどのように取り扱われているか。</p> <p>(3) 内容の構成・排列が、地域の実態や学年の発達の段階等に応じて、系統的、発展的に組織されているか。</p> <p>2 「使用上の配慮等」について</p> <p>(1) 生徒の学習意欲を高めるよう工夫されているか。</p> <p>(2) 自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるように工夫されているか。</p> <p>(3) 目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか。</p> <p>3 「その他」について</p> <p>上記1～2に含まれないもので、全体を通じての特色を記載した。</p>	
少数意見その他		

様式 2

教科名		英語				
	出版社名	教科書名	番号	出版社名	教科書名	番号
		教育出版	ONE WORLD1,2,3	1 7	東京書籍	NEW HORIZON1,2,3
取扱内容、内容の構成・排列	<p>○全体としては、各Lessonなどで基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを総合的に活用して生徒が自ら考え、表現するProjectなどの活動を通して、コミュニケーション能力の基礎を養うことができるような構成となっている。</p> <p>○題材については、身近な人、趣味、日本や外国の文化・学校生活・食文化、日本の地理、自然科学・環境、福祉、科学技術、職業、など多様な観点から学ぶことができるよう配慮されている。</p> <p>○言語活動については、学校内における活動では、ペアあるいはグループ学習などを取り入れ、自主自律ならびに自他の敬愛、および協働の精神を養えるよう配慮されている。また、社会的活動にかなげられるような活動が設けられている。</p> <p>○言語材料については、GrammarでそのLessonの主要な言語材料が使われている場面が示されており、その中の表現や文の構造を確認し、自己表現に生かせるように工夫されている。また同じページには、Lesson全体の学習活動を振り返るための項目も示されている。</p> <p>○補充的な内容については、「Project」で発展的な学習を多様な形式を用いて学習できるようになっている。さらに「Reading Lesson」で語彙を増やし、長文読解ができるようになっている。</p> <p>○内容の構成については、各LessonがPart1～3にReview, Task, Grammarで構成され、それに続いてTips/Useful Expressions→Project→Readingの流れでまとめられている。様々な場面や話題のなかで英語を使う経験を積んでいく様子が描かれた本文を通じて、言語材料、言語の使用場面、言語の働きを理解するように工夫されている。</p> <p>○内容の排列については、第1学年では小学校の既習材料、be動詞、一般動詞、現在進行形、疑問詞、否定文、助動詞、未来、There is/areの文で排列。第2学年では、SVOの文型、過去進行形、不定詞、動名詞、疑問詞+不定詞、比較、受動態、間接疑問文、感嘆文、SVOCの文型で排列。第3学年では、現在完了形、後置修飾、関係代名詞で排列されている。</p>			<p>○全体としては、各Unitでバランスよく5領域の力を身につけ、Let'sシリーズで場面や働きに特化した技能を扱い、基礎的・基本的な知識・技能から思考・判断・表現に向かって技能の統合を図る構成となっている。</p> <p>○題材については、友情、道徳心、労働、郷土愛、学校生活、環境、男女の協力、伝統や文化、国際社会、感情と情操、人権・平和など多様な観点から学ぶことができるよう配慮されている。</p> <p>○言語活動については、英語で授業を行うことに配慮し、ペアやグループ活動を充実させ、帯活動で継続的に行って即興的なやり取りの力をつけるためにSmall Talkのページが設けられ、活動を通じて使える英語が身につくように配慮されている。</p> <p>○言語材料については、すべてのUnitは、既習事項をスパイラルに学習できる構成になっている。小学校や前学年での文法事項を踏まえて当該学年で扱われる文法使用の目的・構造・状況を音から導入し、4技能5領域のバランスよく学習する工夫がある。</p> <p>○補充的な内容については、他教科の内容を英語で学ぶページを設け、学びの融合を図ることで、学習内容を深めることにも配慮されている。</p> <p>○内容の構成については、各Unitが5項目構成、Let'sが4項目構成となっており、最後にStage Activityで締めくくる流れとなっている。Mini Activity→Unit Activity→Stage Activityという順で全体を通してStage Activityに向けて活動を系統的に積み上げていく構成となっている。各Unitの冒頭には必ず到達点が示されている。</p> <p>○内容の排列については、第1学年では小学校の既習事項、be動詞、一般動詞、疑問詞、命令文、現在進行形、感嘆文、動詞の過去形で排列。第2学年では5つの文構造、接続詞、不定詞、助動詞、比較、受動態で排列。第3学年では現在完了形、現在完了進行形、動名詞、間接疑問文、分詞、後置修飾、関係代名詞、仮定法で排列されている。</p>		

<p>使用上の配慮等</p>	<p>○北海道を題材にして、観光名所について対話したり、また北海道の自然保護やスポーツ選手を取り扱うなど生徒の意欲を高める工夫がある。</p> <p>○英語の学習の仕方や辞書の使い方を紹介したり、巻末にCan-Do自己チェックリストがあり、主体的に取り組む工夫がある。</p> <p>○すべての生徒に読むやすいフォントや識別しやすい配色を用いている。また、1人1台端末を活用した学習活動のためのQRコードがある。</p>	<p>○北海道に行くことを対話にしたり北海道の動物を題材にしたり、生徒の学習意欲を高める工夫がある。</p> <p>○英語学習のポイントやコツを系統的に「学び方コーナー」で示したり、学習のまとめを一覧できる「Key Sentence・Today's Point一覧」や巻末に「Can-Doリスト」を掲載して主体的に学習に取り組む工夫がある。</p> <p>○すべての生徒に読むやすいフォントや識別しやすい配色を用いている。また、1人1台端末を活用した学習活動のためのQRコードがある。</p>
<p>その他</p>	<p>学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</p>	<p>学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。調査対象の6教科書のうち唯一のA4版で他の教科書より大きくなっている。</p>

様式 2

教科名		英語				
	出版社名	教科書名	番号	出版社名	教科書名	番号
		開隆堂	SUNSHINE1,2,3	9	啓林館	BLUE SKY 1.2.3
取扱内容、内容の構成・排列	<p>○全体としては、小学校での外国語の基礎の上になつて、いっそうコミュニケーション能力を伸ばすために、「話すこと」を軸にして4技能5領域の能力を総合的に扱い、統合的に活用して思考力、判断力、表現力を育成する構成となっている。</p> <p>○題材については、身近な人、日常生活、環境問題、平和、人権問題、自国の伝統と文化、国際社会、道徳心、職業、創造性、社会参画、健康、など多様な観点から学ぶことができる。</p> <p>○言語活動については、各Programで語彙力の増強、場面に特化したコミュニケーション活動、読む力の育成をしながら各Our Projectでこれまで学んだ表現、できるようになったことを使って行う総合的なパフォーマンス活動ができる。</p> <p>○言語材料については、新出表現の導入ではマンガ形式で示すことにより、文字が読めなくても、イラストや音声を頼りに推測できるよう配慮されている。文法事項はシラバスで構成され、Tryのコーナーでは既習事項を使う機会を設け、スパイラルな学習ができるように配慮されている。</p> <p>○補充的な内容については、reading, further readingで語彙を増やし、比較的長い文章を読み取りながら英問英答により長文読解ができるようになっていく。</p> <p>○内容の構成については、2～3のProgramごとにOur Projectをはさみ、自己表現、プレゼンテーション等を学んだ表現を活用し発表する流れでまとめられている。Steps, Word Web, Power-UpのコーナーでOur Projectで使う技能、語彙力、コミュニケーション活動を学習することによりスムーズに総合的な活動にはいることができる構成になっている。</p> <p>○内容の排列については、第1学年では小学校の既習材料、be動詞、一般動詞、命令文、canの文、疑問詞、There is/areの文、現在進行形、過去形、過去進行形で排列。第2学年では未来形、仮定法、動名詞、不定詞、比較、受動態、現在完了形、現在完了進行形で排列。第3学年ではSVO文型、現在分詞・過去分詞の後置修飾、関係代名詞、仮定法過去で排列されている。</p>			<p>○全体としては、生徒の知的な好奇心に応える題材を多く扱い、コミュニケーションの目的・状況・場面を意識して「4技能5領域」を活用し、生徒自身が課題を見つけ、自ら学び・考え・判断し・行動する力が養えるよう内容が配列されている。</p> <p>○題材については、大きく分けて、国際理解、異文化理解、日本の伝統・文化、キャリア教育、平和、自然愛護のジャンルが各学年バランス良く配置されており、多様な観点から学ぶことができる。</p> <p>○言語活動は、すべての課においてPractice, Useといった新出文法事項を使用する対話活動や自分の考えを表現する活動が設けられており、生徒のコミュニケーション能力の育成が図られるように工夫されている。</p> <p>○言語材料については、語・連語及び慣用表現において必修重要語は太字で示している。また新出語についてはQRコードが載っており、そこから自分の端末で発音を確認できるようにもなっている。文法事項は基本文と新出文法の解説がわかりやすく示されている。</p> <p>○補充的な内容については、Unitで学習した文法事項を用いながら発展的な表現力を身につけさせる「Project」が設定されており、長めの英語で発信活動ができるように工夫されている。</p> <p>○内容の構成については、各課のパートに「聞く」「読む」「書く」「話す」活動を設け、Unitの最後に4技能5領域を活用する「Express Yourself」が配置され、生徒が興味・関心を持ってバランスよく学習できるようになっている。また各パートにおいてペアワークやグループワークを通して、主体的・対話的な学習が進められるように工夫されている。</p> <p>○内容の排列については、第1学年では小学校の既習事項の振り返り、続いてbe動詞、一般動詞、疑問詞、can、3単現のs、過去形、現在進行形で排列。第2学年では過去進行形、will, be going to, must, if, because, that節、動名詞、不定詞、第3～5文型、比較表現、受動態で排列。第3学年では現在完了、現在完了進行形、間接疑問文、関係代名詞、分詞、仮定法で排列されている。</p>		

<p>使用上の配慮等</p>	<p>○札幌市に関するインタビューを位置付けたり、札幌市の雪像や味噌ラーメンを取り扱うなど、生徒の意欲を高める工夫がある。</p> <p>○英語の学習方法を紹介する「この教科書で学ぶみなさんへ」や辞書の使いかたを紹介するページ、「できるようになったこと」リストが全学年に掲載され、主体的に学習に取り組むための工夫がある。</p> <p>○全ての生徒にとって読みやすいフォントや識別しやすい配色を用いるとともに、1人1台端末を活用した学習活動のために、QRコードを掲載している。</p>	<p>○全学年に英語の歌が取り入れられ、Unitの最後の「More information」でユニットにまつわる内容を写真等を用いて解説するなど、生徒が興味を持って活動に取り組める工夫がなされている。</p> <p>○英語の授業で使う表現をまとめた「Classroom English」(第1学年)や「こんなときどうなの?」(第2・3学年)やUnitの学習を振り返る「Targetのまとめ」(全学年)を設けたり、巻末には「Can-Doリスト」「英語のつづりと発音」を掲載するなど主体的に学習に取り組んだり、自学自習ができるような工夫がなされている。</p> <p>○すべての生徒にとって読みやすいフォントや識別しやすい配色を用いるとともに1人1台端末を使用した学習活動を想定して、QRコードを掲載するなど便宜上の便宜が図られている。</p>
<p>その他</p>	<p>学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</p>	<p>学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</p>

様式 2

教科名		英語				
	出版社名	教科書名	番号	出版社名	教科書名	番号
		光村図書	Here We Go!1, 2, 3	3 8	三省堂	NEW CROWN1,2,3
取扱内容、内容の構成・排列	<p>○全体としては、グローバル社会に必要な、英語を使う「力」「心」「意欲」が育つよう、4技能5領域の力が身近な話題から世界に広がる話題の中でバランスよく、また楽しく身につけられ、学習が継続できるよう排列されている。</p> <p>○題材については、発達段階に応じて幅広い知識と教養、また、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう、自分のことから社会や世界のことへと関心を広げながら学習を進めることができる。</p> <p>○言語活動については、対話文や新聞、ウェブサイトの記事などを用いている。また、Let's Talk!やDaily Life、World Tour、Let's Read、Active Grammarなどの教材を使って、習得したことの活用ができるようになっている。</p> <p>○言語材料については、小学校で学習した表現や文型・文法事項を早期段階で扱うことで、基本的な表現を確実に定着させ、また全編を通じて既習の表現や語彙を繰り返しスパイラル式に学習し、定着が図れるよう配慮されている。</p> <p>○補充的な内容については、各Unitの最後に、内容を踏まえて自分ならどうするかなどを考える「Think」の設問を置き、考えを深め、議論できるようになっている。</p> <p>○内容の構成については、各Unitで学んだことを活用し、最後のGoalで学んできた知識や技能を使いながら複数の領域を横断した活動に取り組む構成となっている。「You Can Do It!」には「ふり返り」のコーナーを用意し、CAN-DOリストに対応した評価ができる構成になっている。</p> <p>○内容の排列については、第1学年では小学校の既習材料、be動詞、一般動詞、命令文、canの文、疑問詞、過去形、現在進行形で排列。第2学年では過去進行形、接続詞、動名詞、不定詞、未来形、助動詞、比較級と最上級、受動態、SVOC文型で排列。第3学年ではSVO文型、現在完了形、現在完了進行形、関係代名詞、後置修飾、間接疑問文、仮定法で排列されている。</p>			<p>○全体としては、小学校での学びを前提とし、知識・技能を習得し、思考力・判断力・表現力を育成するレッスン構成になっている。また、高校につながる文法力、語彙力、長文読解力をできるように中高連携にも重点が置かれている。</p> <p>○題材については、生徒の知的好奇心や興味・関心、発達段階に合わせて選定・配置されている。異文化理解、伝統文化、環境問題、自然愛護等の題材を通して、現実の様々な課題に対応できる人材の育成をねらいとしている。</p> <p>○言語活動については、1つのレッスンの中で「見通し」「知識技能の習得」「活用」という学びのプロセスが確立されている。それに加え、目的や場面、状況に応じて英語力を活用する力を育む活動や技能(領域)統合的な活動が設定されている。</p> <p>○言語材料については、小学校で学習した語彙と中学校での新出語句を分けて提示しているが、身につけてほしい語は太字で示されている。文法事項は聞いたり話したりした後に、英文の構造や特徴を整理し明示的に理解する構成になっている。</p> <p>○補充的な内容については、目的や場面、状況に応じた力を育成するReading for Funやfor Information、Take Action!などねらい(4技能)を明確にした活動が設定されている。</p> <p>○内容の構成については、2～3のLessonごとにProjectがあり、レッスンから独立した技能(領域)統合型の言語活動を通して、既習の言語材料を活用する力を養いながら、1つのテーマについて考え、自分の意見を発表する流れとなっている。</p> <p>○内容の排列については、第1学年では小学校の学びの振り返り、be動詞、一般動詞、can、疑問詞、三人称単数現在形、現在進行形、過去形、過去進行形、未来表現で排列。第2学年では接続詞、不定詞、There be、動名詞、SVOO、SVOC、比較、現在完了形で排列。第3学年では現在完了進行形、受動態、後置修飾、関係代名詞、仮定法過去、間接疑問文、原形不定詞で排列されている。</p>		

<p>使用上の配慮等</p>	<p>○北海道の観光地の音声案内を聞き取る活動を位置付けたり旅行の行き先として北海道を取り扱ったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○英語の学習方法を紹介する「英語の学び方ガイド」(全学年)や、辞書の使い方などを紹介する「Your Coach」第(1学年)を設けたり、巻末に「CAN-DO List」(全学年)を掲載したりするなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○全ての生徒にとって読みやすいフォントや識別しやすい配色を用いるとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コード(QRコード)を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</p>	<p>○「For Self-study」「基本文のまとめ」「いろいろな単語」など授業中の活動や家庭学習において活用できる「使える」「学べる」付録が掲載されており、自立的学習者を育てる工夫がなされている。</p> <p>○自分の学習を調整し、学びに向かう力を育むために、巻末の「What Can I Do?」では1年間で生徒にできるようになってほしいことのリスト(CAN-DOリスト)が掲載されており、これを参照しながら自分の苦手な領域や活動を振り返り、それらを1つずつ克服したり、自分に合った学びを身につけたりできるような工夫がなされている。</p> <p>○多くの生徒が利用しやすいように、読みやすく書きやすい書体が用いられ、カラーユニバーサルデザインへの配慮もされている。また、およそ170箇所QRコードが配置され、学びを深めるためのデジタルコンテンツが用意されている。</p>
<p>その他</p>	<p>学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</p>	<p>学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</p>